

たどつのもかし

Vol. 22 令和元年11.7 発行

多度津藩陣屋の蓮堀の一部が見つかりました！！

令和元年9月末日と11月初頭に多度津藩陣屋の確認調査を行いました。そこで陣屋のお堀の一部が見つかりました。



写真上：石積の列 下：石積断面

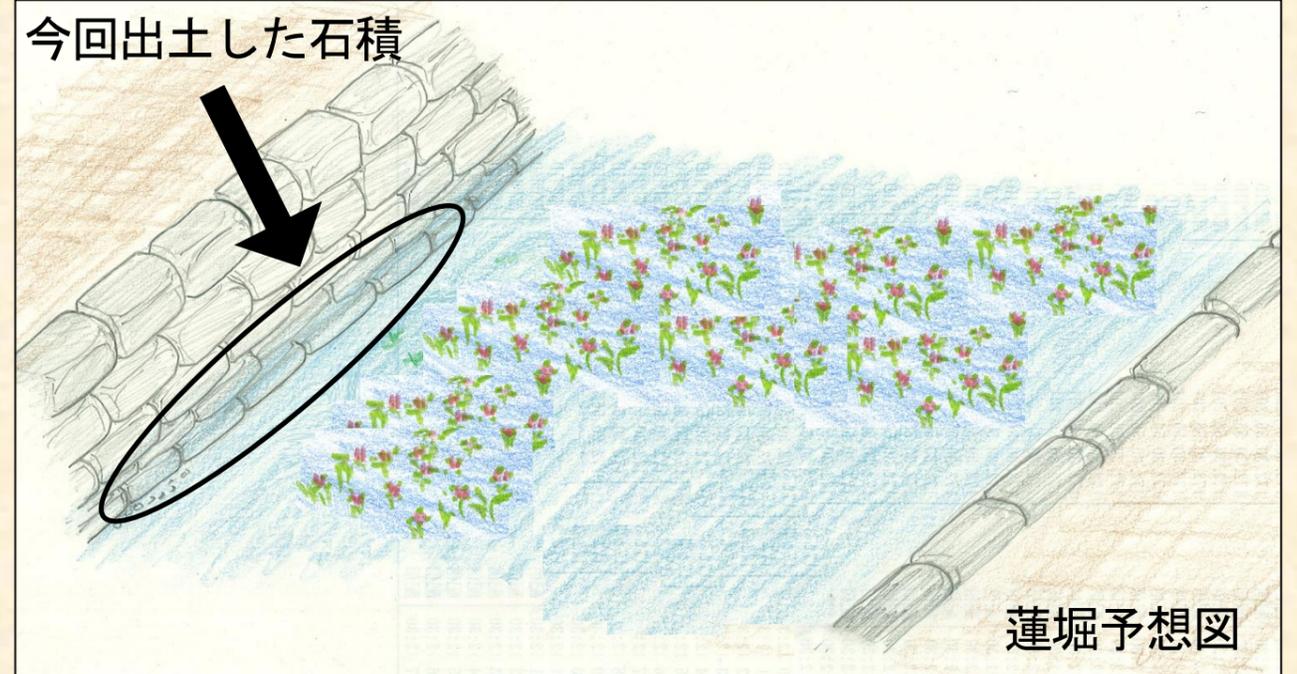
多度津藩は元禄7（1694）年、京極高豊（丸亀藩主）の子高道が多度・三野2郡の内20ヶ村一万石を分封されてできた藩です。この段階では丸亀の城内に別館を置いて藩政をとり行っていました。

そして文政8（1825）年、四代藩主高賢のときようやく、陣屋の工事にかかりました。調練場・馬場・射場・御館・新館・鼓楼・学館（自明館）・堀・門・廊（廓）・外門等を設置し、文政10年に完成、文政12年6月20日、多度津藩主が入部しました。その後、五代藩主京極高琢・六代藩主京極高典までの居館となりました。ちなみに陣屋とは藩の政治を執り行う

施設の総称です。石高の少ない藩では城を設置せず、この陣屋を設置します。

今回発見した堀は水面に蓮が咲いていたため通称「蓮堀」と呼ばれていました。文政年間に陣屋を設置する同時期に造られました。

今回出土した場所は蓮堀の西側のものと考えられ、ここから南北に堀が延びていたのではないかと考えられます。



石の積み方は「布積み」と呼ばれるもので、石材は花崗岩で、石を成形したものも用いています。

以前から東側の石積の一部と思われる石材の露頭がありました。さらに絵図や記録などで蓮堀の存在は想定されていましたが、今回、露頭している石積と対になる西側の石積みが出土したことで、蓮堀は約15mの幅があることがわかりました。